

普通期稲作情報 第2号

令和7年7月18日
J A む な か た
北筑前普及指導センター

1 気象と生育概況

6月27日の梅雨明け以降、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多く推移しました。

今後は以下の事に留意してほ場の管理を行いましょう。

2 水管理

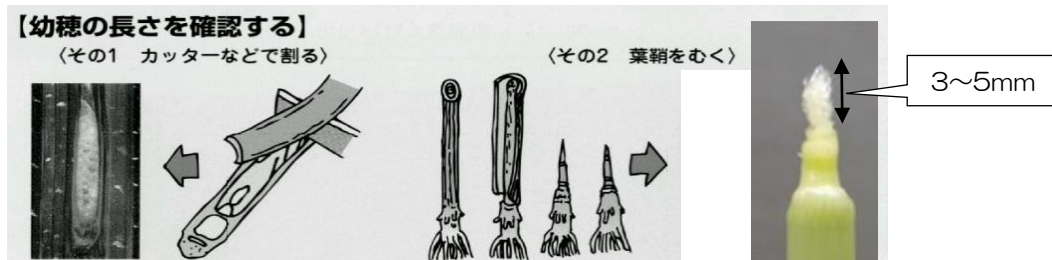
6月中下旬植えでは、間断かん水を実施し有効茎数(18~20本程度)が確保され次第、中干しを開始しましょう。スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策や水不足で田植後浅水~落水管理となったほ場は茎数が少ないため、中干しを弱めに行うか間断灌水を継続し、茎数を確保しましょう。

中干し期間は1週間程度ですが、白乾状態が長く続く場合は、生理機能低下や断根などで稲が痛むので、走り水を行いましょう。中干し終了後は、根腐れを防止するために、水を溜めっぱなしにせず、間断かん水を行いましょう。

高温障害(高温不稔、白未熟粒の発生)対策として出穂前後1週間の水管理が特に重要です。この時期以降に落水状態が続くと稲が高温状態になりやすく、高温障害を助長するのでほ場の状態を十分に確認してください。

3 穂肥

穂肥は、粒数を確保するために欠かせません。施用時期が早すぎると、下位節間が伸長して倒伏しやすくなります。幼穂を確認し、幼穂長3~5mmを確認したら穂肥を施用しましょう。



※葉色が濃い場合は、施用時期を数日遅らせ、施用量も控えめにしてください。ほ場によって生育(幼穂長、葉色)が異なるため、生育に応じて施用時期、施用量を決めてください。

品種別出穂期予想と穂肥時期 (一般平坦地)

品 種	予想出穂期	穂肥 1 回目	穂肥 2 回目
夢つくし	8 / 8頃 (6 / 10植)	7 / 23頃	
元気つくし	8 / 20頃 (6 / 20植)	8 / 1頃	1回目から7日後
ヒノヒカリ	8 / 27頃 (6 / 20植)	8 / 7頃	
ツクシホマレ	8 / 31頃 (6 / 20植)	8 / 8頃	1回目から7~10日後

○穂肥施用量は、稲作ごよみを参照してください。

4 病虫害防除

葉いもちやウンカ類の発生は目立ちませんが、イネカメムシなどの斑点米カメムシ類の発生が早期水稻で認められており、注意が必要です。

○ 斑点米カメムシ類の防除について

畦畔や休耕田のイネ科雑草・牧草等が発生源となりますので、**出穂2週間前までに草刈りを行いましょ**う。（※出穂直前になってから除草すると、雑草で生育しているカメムシを水田に追いやることになるので、逆効果となります）

※イネカメムシは、近年福岡県内で増加しており、管内の早期水稻においても発生を確認しています。このカメムシは、出穂期（全莖数の4～5割が出穂した日）に加害されると不稔になり、穂そろい期（全莖数の8～9割が出穂した日）以降に加害されると斑点米が発生します。防除は出穂期と出穂期の14日後の2回の防除が基本です。防除薬剤としては、スタークル剤、エクシード剤の効果が高いです。



イネカメムシ

補正防除（ウンカ類、カメムシ類）

薬剤名	使用時期	散布量
エクシードフロアブル	収穫7日前まで	2000倍
エクシード粉剤DL	収穫7日前まで	3kg/10a

補正防除（葉いもち）

薬剤名	使用時期	散布量
ビーム粉剤DL	収穫7日前まで	3～4kg/10a
ノンブラスフロアブル	収穫7日前まで	1000倍
コラトップ豆つぶ	葉いもち：初発10日前～初発時 穂いもち：出穂30日前～5日前まで	250g/10a

熱中症予防

- ・農作業中は、定期的に水分・塩分を補給し、休憩はこまめにとりましょう
- ・気温が高い時間帯に農作業しない、単独で作業しないなど十分配慮してください